

実用新案公報

⑨公告 昭和49年(1974)3月4日

(全2頁)

⑩釣竿用ハンドル

⑪実 願 昭45-12985
⑫出 願 昭45.(1970)2月12日
⑬考 案 者 田村辰五郎
東京都足立区六月町1の16の10
⑭出 願 人 竿常釣具製造株式会社
同所
⑮代 理 人 弁理士 田代久平 外1名

図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を例示するものであつて、第1図は本考案に係る釣竿用ハンドルにリールを取付けた状態を示す斜視図、第2図は第1図に示したハンドルの縦断側面図である。

考案の詳細な説明

本考案は釣竿用ハンドルに係り、殊にリール取付部を具備するハンドルに係る。

図中、1は釣竿取付部、2はリール取付部、3は握り部であつて、上記釣竿取付部は、リール取付部2の前方端に一端が固着されている管部材4に嵌合装着されており、一方握り部3はリール取付部2に対して若干下方へ傾斜してリール取付部2の後端に次の様にして接続結合されている。即ちリール取付部2の後方端に管部材5の一端を固着し、該管部材の他端にナット6を嵌め込み、一方柄7には管部材5が嵌合し得る孔溝8と、これに連続して大径孔溝9とを形成し、該大径孔溝の前方端にはビス10を固着具備している円板11を嵌着し、斯くて上記管部材5を柄7の孔溝8に嵌め込み、ビス10とナット6とが螺合するように柄7を回すことによつて握り部3が取付けられる尚、柄7の後方端にはキヤップが適宜取外し可能に装着されている。

リール取付部2は皿断面形状に形成され、その中央部にはリール取付台12を有しており、該リール取付台の上側にはリール足24の受溝13が

形成され、該受溝の前方端にはリール足の前方端に係合し得る掛穴14が設けてあり、一方該受溝の後方端には引金状部材15の略々上半部が入ることのできるような空洞部16が下方に開口して形成されている。

引金状部材15は略々その中央部に於て横ピン17により旋回可能に取付けられている。引金状部材15の上方釣状部分18は、リール足受溝13内に取付けられたリール足24の後方端部を上方から押える作用をなすものである。

リール取付部2の後方端部19の下方壁部分にはビス20が取付けられており、該ビスの前方端は空洞部16内に突入して引金状部材15の釣状部分18の背部と衝合し、また該ビスの後方部は空洞部16外に在つて端部には撮み21が前記ビスと一体的に形成されている。撮み21とリール取付部後方端部19の下方壁部分との間には適宜ロックナット22が間挿されている。

上記の構成を有するリール取付部2にリール23を取付ける場合は、先ずビス20を撮み21を撮んで回わして後退させ、引金状部材15をピン17を中心にして自由旋回可能な状態にする。次に、リール23の足後方端部で引金状部材15の釣状部分18を押圧しながらリール足を受溝13内に嵌め込み、次に該リール足を前方に押し付けてその前方端を掛穴14に係合せしめ、最後にリール足の後方端部が上記釣状部分にて締固されるまでビス20がねじ込まれてリール23の取付が完了する。リール23を取外す場合は上記と逆の操作が行なわれる。

以上述べたように、本考案に係る釣竿用ハンドルは前方に釣竿取付部材、後方に握り部が夫々着脱可能に取付けられているリール取付部の上面にリール足受溝を形成し、該リール足受溝の前方端にはリール足前方端に係合する如き掛穴を設け、また後方端には下方に開口する空洞部を設け、該空洞部に引金状部材の上半部を挿入し、且つ該引金状部材を旋回可能に取付け、この場合引金状部

3

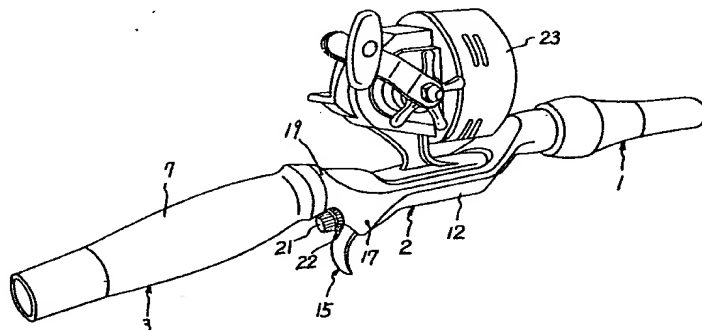
4

材の上方鉤状部分がリール足後端部と衝合し得るようになし、その衝合をリール取付部の後端下方部に取付けたビスにより固定することができるように構成して成るので、リールの着脱が極めて容易であり且つ極めて強固な取付けがもたらされると共に、引金状部材にてリール足の後端部を押えるようにしてあり且つ握り部を引金状部材方向へ傾倒させて無理なく引金状部材へ指が掛かるようにしてあるので、竿を振つたときにビス20が何等かの衝撃で緩んでも引金状部材に指がかかつて

⑦実用新案登録請求の範囲

前方に釣竿取付部材後方に握り部が夫々着脱可能に取付けられているリール取付部の上面にリール足受溝を形成し、該リール足受溝の前方端にはリール足前方端に係合する如き掛穴を設け、また後方端には下方に開口する空洞部を設け、該空洞部に引金状部材の上半部を挿入し、且つ該引金状部材を旋回可能に取付け、この場合引金状部材の上方鉤状部分がリール足後端部と衝合し得るようになし、その衝合をリール取付部の後端下方部に取付けたビスにより固定することができるように構成したことを特徴とする釣竿用ハンドル。

第1図



第2図

